

## 慶應大学の各学部が重視する価値観とはどのようなものか

文章を書く時には、なるべく価値観を意識する必要があります。ここでいう価値観とは、各学部ごとで大切にしている価値観と言うこともできます。ちなみに、皆さんが感じている通り価値観に優劣はありません。例えば、皆さんが人を評価するときにある人は、頭がよければ、高く評価すると考えている人もいます。ある人は、ファッションセンスが、よければ、それだけ高く評価するという価値観を持っている人もいます。ある人は、精神的に高潔であれば、それだけ高く評価するという価値観を持っている人もいます。それぞれの人によって価値観は違いますし白か黒かというようにはつきり分かれているようなものでもありません。ですから、ここでお話ししていることは、このような価値観でなければならないというような価値観の押し付けの話ではありません。

少し分かりにくいかもしれませんが、現実の事例を挙げましょう。慶應大学の文学部を受験する女の子がいました。この子の知人が小論文の添削をしてくれることになりました。慶應大学の文学部の過去問題を解いてその知人に提出しました。小論文の問題は、文化とエンターテイメントについて自由に論じるというものでした。知人は、次のように添削をしました。

.....

この程度の論では慶應大学に合格できない。

エンターテイメントはお金になるからいいというくらいの極端なことを書かなければ合格できない

い。

もちろんですが、この知人は間違っています。まず第一に、他の人が書いていないようなことを書くことによって、評価されるわけではありません。そしてここが最も重要な部分ですが、功利主義的な価値観から主張をすると評価が低くなります。

実学を重視するというのは、利益を重視するというものではありません。広く社会や世の中のために利益を提供することを指して『実』となっているのです。

社会の多くの人にとっての価値とは、価格が安いというような価値だけではなく、社会の役に立つ、問題が解決するということも大きな価値です。ましてや文学部でこのようなことを書くと、採点者に拒絶反応も生まれるかもしれません。

それぐらいに慶應大学の文学部の価値観にそぐわない価値観と表現することができます。それでは私たちは小論文を書くときに一体どのような価値観でもって文章を書けばいいのでしょうか。それぞれの学部の価値観が違ったとしても、大学の価値観は同じですので、まず、大学が持っている価値観はどのようなものなのかをしっかりと理解する必要があります。

## ゝ慶應義塾の価値観ゝ

価値観を知るには、目的を知ることが一番重要です。本書の最初の部分でもご紹介した文章を、ここでもう一度確認してみましよう。

「慶應義塾は単に一所の学塾として自から甘んずるを得ず。其目的は我日本国中に於ける気品の源泉、智徳の模範たらんことを期し、之を實際にしては居家、処世、立国の本旨を明にして、之を口に言ふのみにあらず、躬行実践、以て全社会の先導者たらんことを欲するものなり」

重要なポイントをピックアップします。

- 1 品格
- 2 大志
- 3 実践（知行合一の考えです）
- 4 リーダーシップ

この慶應大学の目的を示した文章からは、少なくともこの四点が、伺えます。功利主義的な価値観ではありませんね。創立者の高いレベルでの気概を感じることが出来ます。この創立者の精神に込めるべく、慶應大学のOBは政界、財界で広く活躍しています。単に活躍するだけに留まらず、独立自尊の精神に則り、インテグリティを重視した活動を行っている方も多いかと思えます。

慶應大学の文学部の価値観とはこのような創立者が大切にしている価値観と文学部特有の価値観が一緒になったものだと考える必要があります。

文学を学ぶ目的を考えてみましょう。もちろんこれは個人的な目的のことではありません。大学として文学を研究する本来の趣旨（本旨）は何でしょうか。

文学には、我々国民の教養のための教育的側面の価値もあれば、文化的遺産としての価値もあります。時代と世代を超えて、広く人類が共有する叡智であり、知の巨人が残した知の宝とも言えます。この文学を学ぶ文学部の入学試験で、儲かるからいいというような、功利主義的な価値観で自分の論を展開するような言説が果たして高い評価を得ることができるでしょうか。もちろんできません。

このようにそれぞれの学部でどのような価値観があるのかということをきちんと意識した上で、大学と学部の価値観にそぐわないことを書かないようにすることは大変重要なポイントです。

慶應大学の場合は、この価値観という意味で他の大学と大きく違います。日本最古の歴史を持つ大学として、そして福沢諭吉という稀有な人物が設立した学塾として特有の価値観がありますので、この点に十分注意して文章を書くようにしましょう。独立自尊が最も慶應大学を象徴する価値観とも言えます。

ここで大変重要なポイントですので、独立自尊を確認しておきましょう。

〓〓〓引用開始〓〓〓

「独立自尊」は慶應義塾の教育の基本である。

義塾の創立者である福澤先生は、生涯を通じて終始、一身の独立を論じ、一国の独立を念じ、志操はあくまでもこれを高く堅持し、いやしくも卑屈賤劣なことは寸毫（すんごう）といえども仮借しないところがあった。しかも、ただ口でいうだけでなく、常に身をもってそれを示された。

その福澤先生が、晩年に、小幡篤次郎以下数名の高弟たちに長子一太郎を加えて、義塾の主唱する道徳綱領の編纂を命じられた。明治33年（1900）2月11日に脱稿して、同月24日の第40回三田演説会で発表された29か条の「修身要領」がそれで、これこそは先生の右のような平素の主義主張を簡潔明瞭に集約したものであった。つまり、独立自尊の人たるべき真の在り方をまさに最も端的に説いたものといつてよく、たとえば「心身の独立を全うし自から其身を尊重して人たるの品位を辱めざるもの、之を独立自尊の人と云う」（第2条）といったぐあいに、それが条を追ってしるされているのである。

〓〓〓引用終了〓〓〓

慶應大学ウェブサイトより引用

ここでご紹介したような価値観に沿っていることが、まず一番重要なポイントです。

さて、ここで、文学部を紹介したので、ここまでご紹介した内容を踏まえて、慶應の小論文試験

特有の事情と解き方を2012年度の慶應大学文学部の小論文を元に解説します。

その前に、論理や説得について、解説します。

## 説得力は論理だけで高まっているわけではない

かつてアリストテレスは、人を説得する手法を体系化した際に、人を説得する三要素は、ロゴス（論理）とパトス（感情）とエトス（信頼性）であると言いました。本書でも説明している論理的説得と情緒的説得の内、情緒的説得とは、感情に訴えるものです。感情は人が論理的に物事を解釈する際には影響力がないと考えている人もいますが、近年の脳科学は感情の記憶が人の判断に大きな影響を与えることを突き止めています。論理と感情では感情の方が論理よりも大きな影響力を持つことが分かっています。後程情緒的な説得力について詳しく記載します。

## 説得の三要素

理性に訴える



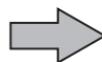
論理  
(ロゴス)

感情に訴える



感情  
(パトス)

信頼性  
(エトス)



理性・感情に訴える

## もつとも重要な論理を入れ込んで構造化する

小論文の理想的な構造とはどのようなものでしょうか。どのような小論文がいいのかは、問題によって変わってきますが、一つだけ言えることは、少なくとも小論文である以上、その答案で考えと理由がきちんと論理的に述べられていることが重要ですので、主張と理由（特に理由とデータ）が中心になっている必要があります。

私は『小論文技術習得講義』という本でモンイリケツという構成を推奨しました。モンイリケツという構成は、一段落目に問題設定、二段落目に意見提示、三段落目に理由、データ、四段落目に結論という構成です。小論文を勉強したことがない人や、小論文なんて考えるだけでも嫌という若い人のために、あえて簡単な覚え方を提案したので、このような簡単で大雑把な指導内容になっていますが、本書を読んでいる方は慶應受験生ですから、もう少しきちんとこの構成について解説しておきます。

誤解が多い部分なので、いくつかある論点を順番にお話ししましょう。

1) モンイリケツという型を必ず使わなければならないというわけではありません。

モンイリケツという型をガチガチに使う必要はありません。私は問題設定をしない事もあります。

本書の後半でご紹介する解答例も問題設定をしていません。その理由は、小論文のテーマが未来像という極めて自分の主観が濃い内容の論点だったからです。従って、〇〇について論じたい。という前向きな表現で、問題設定に変えました。

特に慶應大学を受験する人に覚えておいていただきたいことは、再度確認しますが、このようにすれば絶対に間違いないというような書き方は存在しないということです。状況が変われば理想的な書き方も変わります。

それでは、なぜモンイリケツという書き方を推奨しているのかといえば、全く知識がゼロでどのように書けばいいのか少しも分からない人に対しては、大変有効だからです。

特に問題設定をすることは、読み手にとっても、書き手にとってもメリットがあります。採点者は問題設定されていることで、文章の内容をしつかり理解することができます。そのため、書かれていることの内容が全く分からないので、減点されるというリスクを減らすことができます。多くの人は、自分が書いている文章は自分が頭の中で思い描いているレベルで読み手に理解されていると思っっていますが、そんなことはありません。私はこの仕事を通じてほぼ毎日小論文の添削をしています。ほとんどの小論文は何を言いたいのかがまず分かりません。日本語を書いているので、書いてあることが分からないということは、ほとんどありません。しかし、何を言いたいのかが不明確なのです。特に自分の知識に自信がある人が書いた文章は、いろいろな知識を持ち出して盛り込むので、それらの内容が全体として、それぞれ論理的にどのような意味合いを持つのかということが軽視された形で書き連ねられていることが多いものです。自分の意見を評論家のよう

に述べ続けたりすることで、結果として読み手はこの人は一体何を一番言いたいのだろうか？ という疑問を持つことになります。理解不能なのではなく、論点がぼやけているということです。当然ですが、このような答案は低い点数になります。モンイリケツという構成は、このような文章を書く上で誰もが犯してしまいがちな失敗を防ぐのに有効です。

逆に言えば、このような愚を犯すことがない人は、問題設定を必ずしもする必要はありませんし、このような初歩的な失敗を犯す人（全体の受験生の90%は超えます）は、モンイリケツでガチガチにスタンダードな論文作成を目指して、論文の作法を守る意味でモンイリケツで書いていくことが望ましいということです。

これはレベルが低い人は、モンイリケツを使い、レベルが高い人は、モンイリケツを使わなくていいということではありません。レベルが高い人であっても、モンイリケツでいいのです。文章の作法やマナー、表現やあり方の世界の話ですので、どうしても漠然とした説明になりますが、概ねこのように理解してなるべく文書も型を守り、採点してくださいっている人に対して分かりやすい文章を書くように心がけるといいでしょう。

2) モンイリケツは牛山が提唱しましたが、テクニクや特殊すぎるものではありません。

モンイリケツという型は、私が提唱したものです。これは単に点数を稼ぐテクニクではありません。そんな。そして、特殊すぎるものでもありません。

本来論文というものは、世界共通で、多くの場合序論、本論、結論で書くべきものです。世界の

スタンダードの序論、本論、結論という書き方に問題設定を加えて、分かりやすく覚えるためにモ  
ンイリケツと表現したのが、モンイリケツです。

論文は序論、本論、結論で書けばいいのですが、小論文試験では、あくまでも試験ですから、必  
ず問いがあります。序論、本論、結論で書くだけでは、解答として成立しにくいこともありますし、  
受験生が問いに答えていない答案を書いてしまうということがよくあります。従って、書くべき答  
案はこの問いに答えるものでなくてはならないのです。また、問いを学ぶと書いて、学問と書きま  
す。そもそも大学は学問をするところですから、その素養を見る意味で、小論文試験が課されてい  
るといふ側面もあるのです。聞かれた質問に対して、自分の論を展開することが、大学で要求され  
る知性です。

この意味で、モンイリケツというのは、単なる得点稼ぎのテクニックではなく、きちんと論文の  
マナーを守り、論理的に文章を書こうとする姿勢、論証を試みる受験生としての心構えを文章とし  
て表現するための構成と言うことができます。

### 3) 社会背景の方がいいように思いますという意見

小論文を書く時に、社会背景を書く人が多いので、モンイリケツではなく、シャイリケツ(社会  
背景、意見提示、理由、結論)でも良さそうだと思う人もいるかもしれませんが、慶應大学文学部の  
解答例を見てみましょう。社会背景を私は書いていますね。

理由を述べます。ここまででもいくらからお話ししましたが、まず第一に、小論文試験では、社会

背景よりも問いに答えることが重要だからです。社会背景を書かずに失敗したという答えは実質存在しませんが、問いに答えることは必須なのです。点数への影響力という意味で、指導するための型として、問題設定を重視したのはこういうところと理由があります。問いに答えていない答えは0点をつけられても、文句は言えません。問いに答えていない答えは大変多く、特に慶應SFCの受験生は、問題が特殊でかつ、難解なことが多いので、問いに答えていない答案を書きがちです。第二に、社会背景は書いてもかまいませんが、本論と無関係なおまけのような社会背景、形だけの付け足しが多いためです。社会背景を書くことが、論理的、情緒的に大きな意味を持つ場合は、説得力が増しますが、そうではない場合は、単に読み手をイライラさせるだけです（なかなか本論に入らないため、何が言いたいのかわからなくなる）。

## なぜ問意理結なのか？

小論文はこう書くべきであるという言説には多くの俗説があります。そのため頭が混乱している人もいます。また、インターネットでは、業者の足の引つ張り合いのような醜いネガティブキャンペーン（誹謗中傷）もあるので、余計にそのような言説に踊らされる受験生は頭が混乱しているようです。かわいそうなものです。私もネガキャンの被害にあっていますが、HPにある皆さんの合格証書を見ればネガキャンが根拠のない取るに足らない言説であることはすぐに分かるはずです。日本で小論文試験10位以内の生徒が多く出ているような際立った実績があるので、真っ先に目の敵にされているようです。これは私の見解ではなく、日本最大手の出版社のベテラン編集者

の話です。際立ったサービスを提供する会社や他の会社に恐れられている会社、有名な著者はほぼ必ず批判の対象になるのが常だそうです。その意味で、良くないサービスは批判の対象にはならないと彼は述べていました。

小論文はどう書くべきかを考える際には、小論文とは何か？ や小論文とはどのように書くべきなのか？ ということを考察するには、どうしても複合的に考えることが最低条件になっています。

どのように複合的に考えるべきでしょうか。①複数ある本質を理解する。②間違った書き方の理由を学ぶ。③小論文とは何か？ それはなぜか？ ということを学ぶ。このようなアプローチで考察する以外には対処法はないので、本書では読者がきつちりと成果を出せるようにするために、複合的なアプローチを行います。まずは③から解説します。そのために論文の構成をここでご紹介します。

.....論文の書き方.....

《序論（世界共通）》

序論は、序説と表記されることも多い論述のパーツのことです。論文では「はじめに」と表記されることもよくあります。書くべきことは、とりあげたいテーマの背景や先行研究のまとめ、テーマを考察する意義、問題提起と主張、本論の予告などです。

《本論（世界共通）》

調査・分析の概要、データ、データの解釈、データに基づく主張（サブのもの）

《結論（世界共通）》

『おわりに』と表記することも多い部位。本論のまとめや振り返りを行い、考察から得た主張を強調したり、補足したりします。本論の考察や、論文で取り上げなかったことや今後の課題を書きます。

.....

以上が論文の書き方のスタンダードです。論文の書き方をどんなものでもいいので手に取ってみましょう。論文の場合は、細かな分け方も存在しますが、大別すると構成は必ずこのように書いてあるはずで、私がなぜ問意理結を提唱しているのかというと、世界の論文の書き方がまさしくこの問意理結だからです。世界の論文の作法、スタンダードに従って、間違っていることがあり得ないためです。全国TOP10位以内が多数出ている（模擬試験の結果）理由は間違った方向性の指導ではないことも大きな理由の一つだと考えています。

## 知識と知性と知恵の3つの知の構造

知とは何でしょうか。これが分かれば小論文でも何をアピールして書くべきかが分かりやすくなります。小論文試験に懐疑的な人は、まずこのことが分かっているために、小論文試験を過小評

価しています。知とは、知識と知性と知恵の三つからなるものです。従って、ある人が頭がいいかどうかは、知識があるか、知性があるか、知恵が働くかのどれかによって評価が可能です。

センター試験で問われるのは、そのほとんどが知識だけです。ところが小論文試験では、知恵や知性が問われます。世の中で活躍する人をブックスマートとストリートスマートという風に分けて表現する呼び方があります。ブックスマートというのは、いわゆる高学歴な人達のことです。知識がしっかりあり、高度専門家と言われる公認会計士や弁護士などのことです。それに対して、ストリートスマートというのは、知識はありませんが、知性や知恵が働く人達のことです。どちらもこの社会で、大きな力や影響力を持つようになります。例えば中卒なのに、総資産が数千億円あるような人はこの部類の人です。場合によってはストリートスマートは、数兆円規模の企業を作って、何千人というブックスマート（東大卒やハーバード卒）の人間を雇用して、リーダーになっていくこともあります。

小論文試験で試されるのは、知識だけではなく、知性や知恵の方です。知識もいくらか評価の対象になりますので、知識はなくてもいいということではありません。しかし、知識だけではなく、知識や知性も評価の対象になるのです。

このことを勘違いしている人は、いかにして知恵や知性を高めるかということあまり考えなくります。重要なのは、知識の方ではなく、知性の方です。慶應大学環境情報学部では、知恵が一番重要になることもあります。

そこで、この知識と知性と知恵の内、知性と知識についてイメージをふくらませておきましょう。

↳ 知性とは何か

まず、定義を辞書で調べてみましょう。

三省堂の辞書より引用

〓〓〓 引用開始〓〓〓

(一) 物事を考え、理解し、判断する能力。人間の知的能力。

「豊かな―の持ち主」「現代を代表する―」

(二) 感覚によって得られた素材を整理・統一して、新しい認識を形成する精神のはたらき。  
〓〓〓 引用終了〓〓〓

特に重要なのは、1よりも2の方です。頭でっかちという言葉がありますが、知識がたくさんあっても知性がない人は、現実の社会ではあまり活躍できないことが多いものです。その理由は知識の量が多くても判断力が上がるとは限らないからです。事実を知っていても、目の前の問題の構造を見抜くことができなかつたり、本質的な問題点を見抜くことができなかつたり、雑多な情報から帰納法的に論理的に結論を導けなかつたり、非論理的にゼロベースで感性で考えて物事を考察する

ことができなかつたりする為です。勉強の成績がいい事で人にすごいねと言われて自己重要感を感じてきた人は、学校の成績＝頭の良さと思いたい傾向にあります。自分を否定することになるからです。世の中に目を向けてみましょう。成績が良くなくても頭がいいが活躍しています。その理由はテストは万能ではないからです。テストは頭の良さを判定できません。一部の能力を見る事ができるわけです。特に知性、考える能力は小論文試験で見える方が都合がいいわけです。慶應大学は、この知性の高い学生が多い珍しい大学と言えるでしょう。小論文試験が医学部も含めて必須になっているからです。

小論文では、知性が最も重要です。他の試験では答えが与えられずに、答えを思い出すことが要求されます（知識重視）。それに対して、小論文試験では、情報を与えて、答えのない問題を出し、自分なりの答えを出すことを求められます。求められていることがまったく逆に近いのです。

物事の判断には、情報の整理が必要です。インテリは、細かい資料で、細かい情報を列挙して、その情報を基に、総合的に判断を加えたという形が美しいと、すばらしい！と評価しがちです。しかし、現実の社会で本当に重要な判断を加える時には、そのような資料の中に書かれている情報だけでは足りません。必ずその資料に載らないそぎ落とされた情報があるものです。美しいプレゼンも不要だし、知的な雰囲気も意味がありません。ただ、判断の妥当性のレベルが高いのか低いのか、もっと露骨に言えば、良い判断か悪い愚かな判断なのかということが大切です。知的な雰囲気をいくら醸し出しても、愚かな判断は評価の対象にすべきではないということです。

今までの人生すべての情報を頭の中にグルグルまわして総合的に判断を加えていくことが重要です。そうしなければ適切な判断はできません。ところが、このような総合的な頭脳活動は、実は頭が良くなければできません。基本的に総合的な判断能力というのは、脳のあらゆる感覚を総動員させて判断するので、場合によってはある人がどういいうシーンでどのような感情的反応を見せたのかというような類の情報までが検索対象になります。言語的な思考だけではなく、非言語的な思考もしなければなりません。そのためには、少なくとも脳のワーキングメモリと呼ばれる多くの頭脳活動を同時に行うことができない部位が他の人より優れていることが望ましいわけです。少ない情報を頭の中で扱うのと、多くの情報を頭の中で同時に扱うのでは、脳にかかる負荷がまるで違います。パソコンに例えると、CPUが処理速度に対応しているのに対して、メモリーがワーキングメモリに対応しているわけです。どんなに頭の回転が速くとも、総合的な情報判断ができなければ知性が高いとは言えません。

中卒なのに、たたき上げて数千億円というような資産を持つ人は、この知性と知恵が異常に優れていることが珍しくありません。知識はないので、難しく説明したり、論文を書いたり勉強することとは得意ではありませんが、知性のレベルが高いので、自分にとって本当に重要なことを鋭く見抜いたり（本質的問題発見をしたり）、問題解決能力が異常に高いのです。また目から入った情報を総合的に認知する仕組みや感度が異常に良いことも多いです。

人の顔に現れた微妙な表情の変化や声の質の変化から、感情を敏感に察知して、適切な言葉を投

げたり、そのように人が30人、50人と集まる場所で、誰がどのような感情をどのように持っているのかということも敏感に察知して、認知した上で、処理することができます。社会で活躍したり、リーダーシップを発揮して多くの人を率いて、他の人の力を使うことができるのは、このような人です。逆にどんなに頭が良くても、一人では活躍できないのが人間です。その意味で、社会で活躍するには知識よりも知性が大変重要な能力なのです。

ゝ知恵とはゝ

知恵も同じくまず辞書を引いてみましょう。

三省堂の辞書より引用

〓〓〓引用開始〓〓〓

ちえ【知恵／＼▼智▼慧／＼▼智恵】

(一) 「仏」空など仏教の真理に即して、正しく物事を認識し判断する能力。これによって執着や愛憎などの煩惱(ぼんのう)を消滅させることができる。六波羅蜜の一つ。般若。《智慧》

(二) 事の道理や筋道をわきまえ、正しく判断する心のはたらき。事に当たって適切に判断し、処置する能力。

「―が付く」「よい―が浮かばない」「―をはたらかせる」「―を貸してくれ」

(三) 「哲」単なる学問的知識や頭の良さではなく、人生経験や人格の完成を俟(ま)って初めて

得られる、人生の目的・物事の根本の相にかかわる深い知識。叡智（えいち）。ソフィア。

|| || || 引用終了 || || ||

知恵があるというのは、一種の普通の人の理解を超えた次元の頭脳がある（場合がある）ということです。例えば、エジソンはその典型です。エジソンには知識はなかったかもしれない。しかし時代を超えて語り継がれる知恵があったのです。天才とはこのような人のことを言うのでしょうか。世界で初めて電球を作ったエジソンは、知性があるというよりも人一倍知恵があると表現できます。知恵というのは無から有を産むような頭脳活動のことでもありません。私は人の頭の中をのぞくのが仕事です。ですからいろいろな人の頭の中をのぞきます。さらに、ビジネススクールでディスカッションを常にするので、問題解決能力という点から多くの人の頭の中をのぞきます。その結果分かったことは、この類いの知恵を産むための思考様式が身に沁みついた人とそうではない人がいるということです。思考のクセのようなものが人によってあり、知恵を産む癖がある人と、知恵とは無縁の固定観念で思考が固定化された人が存在します。知恵が人一倍強いというのは、それだけで大変稀有な頭脳の力とも表現できるでしょう。知恵はエジソンが世界を変えたように、世界を変える力を持つためです。

可能ならば知識も知性も、知恵もすべてを鍛えることができればそれに越したことはありません。この我々が生きている社会で活躍したい場合は、知識はさておいても、知性や知恵が働くことが重要です。例えば、ある山に登頂しなければならぬという問題が目の前に現れたとします。知識が

ある人は、山の登頂に必要な知識をたくさん知っています。しかしそれをどう組み合わせればいいのかの判断ができません。知性がある人は、情報を分析します。そして問題の解決策や本質的な問題を論理的に見抜き、情報をまとめ、知的にそれを話すことができます。問題解決能力が高い人です。知恵がある人はこれら（山の登頂に必要な知識や、分析能力や問題解決能力など）がの何もなくとも、飛行機やヘリで到達することを思いつき、空から一瞬でロープで降りて、目標を達成してしまいます。

小論文では、知識だけではなく、本質を見抜く知性や、状況を打開する知恵も見られます。このことをしっかりと認識した上で、答案を構成するように気をつけましょう。

## 社会背景はなぜ（原則としては）書かなくていいのか？ 減 点を防ぐテクニク

大変重要な部分ですので、もう一度確認しておきましょう。

社会背景は書いてもOKです。書かなくてもOKです。受験生の答案でよくあるミスは自分の論述部分と無関係な社会背景を書いてしまうミスです。書いてあっても書いてなくても同じ内容を書くくらいなら、文字のスペースがもつたいたないので書かない方が（一般的に）よいことが多いです。

社会背景を書くことは、大変難しい作業です。社会背景をどのように認識しているかが分かります。

すので、知性のレベルや、知識のレベルも丸裸になるような性質があります。この意味で、社会背景をきちんと書くことは、ハイレベルな作業と言えます。求められれば書く必要がありますが、求められていなければあえて書く必要はありません。自信がある人は積極的に書くといいでしょう。

私が社会背景を書くことをお勧めしないもう一つの理由は、下手をすると、採点者をイライラさせてしまうからです。きっちり書けばそんなことはありませんが、ダラダラ書いたり、内容が伴っていないと、本題にさっさと入ってほしいという感覚を持たれてしまうことがあります。そのため、あまり推奨していません。

## なぜ問題設定するべきなのか 6つの理由

問題設定は必ずしなければならぬわけではありません。問題設定はしなくても大丈夫です。私は、『小論文技術習得講義』（エール出版社）で、モンイリケツという型を使うことをお勧めしました。ですから何が何でも問題設定をしてその後に、この型にはめようとするとする人が中にはいますが、私は決してガチガチの型にはめることを推奨しているわけではありません。問題設定をしないことがあってもOKです。しなくてもかまいません。

小論文試験に関して最も重要なことは、大学の期待に応えることです。ですから、特定の書き方やテクニックで点数を確保するというようなことは、私は一切考えていません。

それでは大学では一体どのようなことを期待しているのでしょうか。一つだけ確かなことは、社会に出てから活躍する人材を求めているということです。社会の先導者になることを目指している大学が、社会で少しも使い物にならないというような厳しい判断をされる人をたくさん排出しようとしているはずがありません。

従って、まず第一に考えるべきことは、社会で活躍する人とはどのような人物かということです。社会で活躍する人は、次のような人物です。

- 1 コンピテンシー能力がある（結果につながる能力）
- 2 人に自分の考えをはっきり伝えることができる
- 3 自分の考えを持ち、自分の頭で考えることができる
- 4 本質を見抜くことができる

この他にいくらでもあるのですが、この辺でやめておきます。右に列挙した2を見てください。人にものはっきり伝える力、これが大変重要です。政治家になっても、企業の中でリーダーになっても、このような力がないと世界で活躍できません。ここでお話ししたことを踏まえて、左のポイントを見ていきましょう。

《理由1 問題設定には、人の注意を引きつける役割がある》

問題設定には、人の注意を引きつける役割があります。採点者は、楽しみながら採点をしているわけではありません。長時間興味のない文章を読み続けています。注意力も、相当に集中力がある人が長時間耐えているわけではないならば、散漫になるのが普通の人間です。そういう状態の人の注意をしっかりと引こうと思ったら、意見やデータを述べるのではなく、問題を設定して、興味を引く必要があります。なぜ〇〇なのか？ という問いが目の前に現れると人間の脳はその問いに対する答えを頭の中で無意識に検索し始めます。採点者も同じく、頭を働かせる必要があります。

## 《理由2 論点の明確化》

多くの小論文の答案（模範解答と書かれているものも含む）には、論点がありません。恣意的にエッセイのようにあっちにいたりこっちにいたり、話がズレることも珍しくありません。若い受験生が書いた文章ですから、仕方がないことです。このような話のズレは当然ですが、低い点数につながります。問題設定をすれば、書き手も迷うことが少なく、論点を明確にしたまま論述していくことがやりやすくなります。自分が何について論じるのか、論じる範囲を限定することが論文の要件だと覚えておきましょう。論点がないものは論文ではありません。

## 《理由3 設問の要求に答える》

小論文は設問の要求に答えなければなりません。設問の要求（聞かれていること）に答えていな

い小論文は、点数はありません。問題設定をする時に、設問で聞かれていること（論点）を設定すれば、受験生も間違うリスクを減らしやすくなります。

#### 《理由 4 採点者に分かりやすい》

問題設定をしている小論文は、採点者にとっても分かりやすいからです。採点者はまず第一に、設問に答えているかどうかを見えています。設問に答えていない小論文に点数を出すわけにはいかなからです。

#### 《理由 5 話を分かりやすくする（テーマの明確化）》

問題設定をしている文章は、何について書かれた文章なのかがよく分かります。問題設定をしていない文章は、何について書かれた文章なのかがよく分からないものの中にはあります（大変多いです）。何をテーマにした文章なのかを明確に伝えるのは、それなりに難しいことですが、問題設定をすれば、小学生でもそれが可能になります。テーマが不明確なものも、論文とは呼ばれません。テーマが不明確な文章は、エッセイになります。

#### 《理由 6 文字数を少なくすることができる》

社会背景を書いた場合、200文字くらい文字のスペースを使ってしまうこともあります。しかし、それによって自分の論述内容のレベルが引き上がっているわけではないので（まだ社会背景を第一段落に書いた段階では、考えも述べていない段階ですね）、与えられた文字制限数を有効利用しているかどうかという点では大変大きな疑問があります。小論文の命は、論証であって、つらつらと自分の意見を述べることではありません。人の意見は評価できません。論証過程は評価の対象になります。従って小論文の命である、論証部分の文字スペースを多く取ることが重要です。論証部分で文字のスペースを多く取るには、社会背景で文字数を使ってしまわないことが大変重要です。

## 意見提示の書き方

↓10を語るのは、1も語っていないのと同じ↓

意見提示で最も重要なことは、論点（聞かれていること）について1点だけしか述べないことです。設問で複数のことが聞かれている場合は、そのすべてに答えてください（重要）。4点について述べることを要求されている場合に、1点しか述べなかつたら、当然ですが、点数はありません。いくつかのことを述べてもいいのは、総論と補足説明という形で、補足説明を付け足す場合です。一つのことを述べると言っても、どうしても一言では述べることができないことがあります。そういう場合は、まず総論を述べて、そのあとに補足説明として、付け足して述べましょう。

多くの人がやってしまう間違いは、たくさん述べているのであるから、それだけ多く評価されるといふ間違いです。

10個のことを述べるのは、一つのことを述べていることにもなりません。(たくさん述べて逆効果だということです。結局は、何が言いたいのか分からず、一つ一つの主張も説得力がなくなります。なぜならば、そこで述べられていることは、単なる個人的な考えに過ぎないからです。小論文では個人の考えを評価の対象にすることは、基本的にはありません。論証されることによって、その考えが事実に近いものであることが証明されてはじめて、評価の対象になります。どのレベルで論証されているのかということが重要です。論証のレベル(本書の前半でご説明している論理の構築方法や、構成、内容、表現等のレベルのこと)が高いのか低いのかということが、すなわち評価に直結していると考えましょう。

## 主張の数に比例して点数は下がる

↳ 受験生の意見を聞きたい人はこの世にいない

受験生の中には、自分の知性に自信がある人がいます。特にこのような人に多い間違いは、評論家タイプの文章を書いてしまう間違いです。

自分では評論家のように文章を書いていくつもりがない人でも、日本の論点などの、評論家が集まって書いた論文集を常日頃から読んでいる場合、評論家の書く一般論文のような書き方が体に染

みついでしまうことがあります。

評論家のような書き方が体に染みつくのは大変危険です。なぜならば、評論家と受験生では、求められていることがまったく違うからです。

評論家というのは、一種の先生です。受験生は先生ではありません。評論家はその分野の専門家として、意見を聞かせてくださいということを求められています。それに対して受験生は、あなたの意見を聞いてあげましょうというスタンスで文章を試験においては読まれるわけです。従って受験生が先生のように書くと、生意気だという印象を採点者に持たれてしまいます。

違いは何かというと、必要な論証のレベルです。評論家は、その知見を評価されて、評論文を書くことを求められているので、その知見を踏まえた、その人のフィルターを通した考えを求められています。何もかも論証する必要はないし、あれもこれも意見を述べてもいいわけです。それに対して、受験の小論文はその手の知見から生まれる考えは少しも求められていません。ここに気を付けましょう。

## 主張に関する慶應小論文の例外

↳ 提案型の例外

慶應大学の小論文では、プレゼンテーションを求められることがあります。ここが一般的な大学との大きな違いでもあります。経済学部でも過去に出題例があります。このような提案型の問題の

場合は、提案内容を詳しく話すために、自分の主張を複数書かなければならないことがあります。これについても実は総論と各論という風に分けて書き、自分の（二番メインの）主張を述べた上で、補足説明として、細かいことを述べていくというスタンスが大切です。原則としてプレゼンテーションはソリューションでなければ価値が低いので、自分が提供するソリューションが、なぜ価値のあるものなのかということがしつかりと説明されている必要があります。この点については、慶應特有の小論文問題であるプレゼン型の解説のところでも詳しく述べます。

### 〜小論文の主張に求められるものとは？〜

小論文の主張というのは、思ったことを書けばいいというわけでもありません。最初は難しいので、思ったことをそのまま書いてもかまいませんが、たくさん小論文を書くうちに少しずつ慣れてほしいことがあります。それは、理想的な小論文の主張をできるようになることです。

### 【新規性】

小論文を書く主張は、誰もが思っていることであつたり、誰もが言っていることというのは、あまり適切とは言えません。そうはいつても、受験生が書く文章ですから、学者が書くような難しいことや、世界中のだれも気付いていないようなことを書くことはできません。ですから完全な新規性がある必要はありません。しかし、少しも新規性がないというのはよくありませんので、少しでも他の人が思いつきにくいことを書くことができればそれだけ発想力等で評価の対象になります。

## 〔メタ化〕

小論文では、情報をメタ化して述べるのが求められます。メタ化というのは、自分の認知を認知する場合や、複数の事象を総合的に見て、その現象を総括して俯瞰した上で認知したり、その総合的な認知の上に、さらに情報をいくつも付加して、全体を俯瞰して、その状態を認知するようなことを言います。思考のレベルとして大変高度なことができなければ、情報をメタ化して見たり、思考することはできません。このようなメタ化した思考は多くの人ができるわけではないので、メタ化された情報は多くの場合、高次の情報として新規性を持ちます。

例えば政治や経済を論じる際に、今社会で起こっていることを見て、そのままその現象がいい、悪いと述べるのは、一次的な情報だけを表面的に扱っている思考です。これに対して、他国の事例を二つほど挙げて、その他国のケースと、自国で起こっている政治経済の問題を総合的に見て、何が言えるのか？ ということを考えれば、もう一段階高次の情報です。さらに、時間軸を加えて、過去の歴史を振り返って、政治や経済の流れがどのようなものであったかを考察した上で、空間的にも俯瞰して、他国の事例を総合的に見て、自国の政治経済の問題を考察した場合は、さらにメタ化が進み、より高度な次元で考察ができます。

## 理由・データの書き方

少し前の部分でも述べましたが、小論文では、原則として理由は一つであるよりも、複数ある方

が評価が高くなります。論証においては理由やデータは多ければ多いほどいいということになります。逆に理由やデータがないということは単なる自分の思い込みということですから、その場合は、答案の評価は下がってしまいます。

理由を書く時には、論理関係に気を付けて、整理して書くようにしましょう。理由は〇個ある、というように、最初に何個の理由があるのかを書いておくのも一つの方法です。その上で、データとしてのどのような事実があるのかを書きます。事実とは、原則としてFACTとして、実際の現実を書くようにしてください。事実というと、政府が発行している〇〇白書のような、きっちりしたデータでなければならぬのかなと感じている人もいるかもしれませんがそんなことはありません。例えば、

アメリカでは肥満は社会問題になっている。

というような、誰もが納得して頷くようなことは、データとして扱ってもかまいません。ポイントは自明性です。自明であり、ほぼ事実とイコールの関係にあるものについては、小論文の中で、データとして扱ってもかまいません。重要なことはその点について読み手が事実であるとか、一般原則であると認知することです。事実と主張の関係はBecauseであり、主張と理由の関係はSinceであると、前の部分で述べました。事実であると認識されるか、一般原則があると認識されるかが、論理を構築する際の読み手の思考の足掛かりのもっとも基本的な土台になっているわけです。このポイントは、論理の前提は、目的、価値観、事実であるという後の解説につながります。読み手に

論理的であると思ってもらえるかどうかは、データの事実性や、理由が一般原則であるかどうかについての読み手の中での事実性のレベルにも大きく依存しているということです。

### ↳ データを書く際の注意点

データがあるということは、事実であるということではありません。従って、○○というデータがあるので、○○に違いないと考えてはいけません。データはあくまでも一つのデータにすぎません。しかも過去のことであることも多いので、時間が過ぎたり、状況が違えば、違う結論が導かれるかもしれません。このようなことに気を付けた上でデータは扱うようにしましょう。もう一点気を付けるべき点があります。データが事実であってもそのデータと主張の間に論理的な飛躍があれば、そのデータは何の意味もありません。

例) 彼はカッコいい服を持っている。つまりこの男は、かっこようをつけたナルシストな精神の持ち主で女性をたぶらかそうとしているということである。

この文章は論理に飛躍があります。自分の勝手な解釈で、事実から論理を飛躍させて、無理やり結論を導いているわけです。普通に考えてこの論理がおかしいのはすぐに分かりますね。カッコいい服の一つや二つは誰でも持っているでしょう。こんなあからさまな間違いは普通の人はまずしません、似たような間違いは多くの受験生がしてしまいます。○○の事例があるということから、

つまり〇〇なのである、とか、一つのデータから断定的な口調で決めつけるように主張してしまうのが、典型的な間違いです。

## 構成力とは

構成について重要なことは、構成とは文字数のことではなく、論理のことだという認識です。全体を四つくらいの段落に分けて、同じくらいの文字数で述べるのが理想というわけではないということです。ケーキの均等割りのような小論文の構成がいいと勘違いしている人が時々いますが、そのようなことはありません。

全体を100%とした場合に、比率としては、第一段落が10%、第二段落が10%、第三段落が70%、第四段落が10%くらいでもかまいません。このような極端な比率では、点数はもらえないと感じている方もいるかもしれませんが、そういうことはありません。

構成力と受験で呼ばれているのは、論理的構成力、文章構成力です。論理的に構成力があるというのは、論理関係がはっきりと文章で表現できているかどうかということです。文章構成力とは、論理的な構成だけではなく、序論から結論までの、文章全体をどのように設計しているのか？ということです。小論文の目的は小論文の出題意図（プレゼンテーションや論証）に沿ったレベルの高い形で、目的を達成することです（プレゼン、論証の成功）。簡単に言えば、プレゼンや論証を成功させることですから、その成功のための理想的な構成になれば構成は点数が高いという

ことになります。

## 説得力とは

説得には、論理的な説得力と情緒的な説得力があります。近年リーダーシップを発揮するために注目されているのは、情緒的な説得力です。オバマ大統領の演説が人を動かすのは、この情緒的な説得力が優れているためです。

論理的な説得力は、論理がしっかり組まれていることで高まります。少し前に説明した「もれなく、重複なく」が、論理のキーワードです。どのような問題を解くにせよ、その問題を解く時に必要な考察のためのポイントをまず探しましょう。

↓（段落という意味です。）

そのポイントをフレームワークとして、思考のための足掛かりにすることで、論理のものを防ぐことをしやすくなります。論理のものをなくすだけではなく、論理の重複がないように気を付けた上で、タテの論理とヨコの論理に気を付けながら、読み手に論理関係が分かりやすく伝わるように書きましょう。いくらしっかりと論理が組まれていても、読み手に伝わらなければ仕方ありません。

情緒的な説得力とは、相手の感情に訴える類の説得力です。例えば、人の命を救う政策を推奨す

る際に、『人の命は地球よりも重たい』という言葉を言うのは、論理的というよりも情緒的な説得です。基本的に論理と言うのは、AはBであるという命題が成立するために、個人個人が持っている常識や価値観に、命題が合致している必要があります。人間は、いつかは死ぬという命題は、動物は死ぬ、あるいは、生き物は死ぬという大前提があり、小前提として、人間は動物であるという命題があります。そして、大前提↓小前提↓ゆえに人間は死ぬ、という結論が導かれ、多くの人はこの大前提と小前提があるために、納得しているわけです。

非論理的な説得を試みる場合には、これらの前提が、読み手の価値観に合致している必要があります。読み手の価値観に合致していれば、説得力を持ちますし、読み手の価値観に合致していなければ説得力を持ちません。

例えば『このような政治が許されていないはずがない』というようなことを書いた場合、この言説は、そうだそうだ！ と思っている人には響きますが、そう感じていない人には響きません。

↳ 論理的な説得力と情緒的な説得力はどちらが強い？

論理的な説得力と情緒的な説得力では、圧倒的に情緒的な説得力の方が強いということは大変重要なポイントです。多くの人は、論理的に説得すれば、相手は納得すると考えているのですが、実はそうではありません。このあたりの詳しい事情は、『小論文技術習得講義』（エール出版社）に書いてありますので、読んでみてください。

♪好きか嫌いか♪

あなたの書いた小論文の内容が好かれるか、嫌われるかということも、時に重要です。細かい文章の言い回しや、表現の方法、字のきれいさもバカにはなりません。人間は論理は後付けですので、最初に嫌われたり、悪い感情を持たれると、その後の評価に影響します。なるべく採点者は公正な採点を心がけているはずですが、それでもやはり人間ですから、意識しないところで、感情が点数に影響している可能性は否定できません（補足）。私は塾の生徒の小論文を採点する時に好きか嫌いかで点数をつけるようなことはありません。添削というのは、気分で作るものではなく、点数が上がるポイントを教える作業です。採点とは本質的に真逆の性質も持つ行為です。

## 内容力とは……論理的整合性、経験的妥当性、実証性

内容力とは何でしょうか。小論文の評価ポイントの一つです。内容力とは一般に、以下のものを言います。この他にもありますが、最も重要なものを書いておきます。

- 1) 論理的整合性（論理的かどうか）
  - 2) 経験的妥当性（経験から納得がいくものかどうか）
- 1と2を含めて実証性があるかないかということが内容力の決め手となります。

↳論理的整合性とは↳

論理的整合性とは、ここまででも幾らかお話ししてきましたが、その文章の論理のレベルが高いのか低いのかということです。

↳経験的妥当性↳

経験的妥当性とは経験に照らし合わせて、了解性があるかないかということです。

小論文では、採点する時に恣意的に採点しているわけではありません。内容を讀んできちんとこれらの視点からどのレベルの答案になっているのかということを見られていると考えてください。

## 表現力とは

表現力について気を付けたいことは、難しく書けばいいというわけではないということです。重要なのはバランスです。文章の一部が難しい表現だったり、硬い表現なのに、文章全体のレベルが低いとか、表現のレベルが低いと、背伸びをしているのが丸わかりになってしまいます。一番ありがちなのは、文末の表現だけが硬いというものです。

無理して難しい表現や、硬めの表現を目指すことは、ある程度必要ですが、【やりすぎに注意】ということはお覚えておきましょう。あくまでも表現力は総合的な評価です。

## 発想力とは

発想力は概ね次の二点が、見られていると思ってください。

- 1) 新規性・独自性（発想が新規なものかどうか）
- 2) 思考の高次性（メタ化されているかどうか）

### ↳ 新規性

新規性については、ほとんど説明の必要がないと思いますが、解説しておきます。新規性というのは、目新しさです。ですから、インターネットと聞いたらずぐに、セキュリティの問題があるというようなことを書かないことが大切です。小論文のネタを仕込んでいる場合、この新規性という点で、ほとんど評価を得ることができないような文章になっていることが少なくありません。日本と言えば、日本人は集団主義で……とか、村社会で……とか、ネタ本にいかにも書かれているようなお決まりのパターンは、読み手をつかりさせます。

## ↳ 思考の高次性

ここまでにも幾らか述べましたが、思考が高次であるかどうかということも、大変重要です。高次の思考をして、他の人には見えないものが見えた場合、そこからさらに、他の人には考えることができなかつた新しい発想、新しい知見、新しい思考のフレームワークを提供することができれば、十分に発想力があると見なされます。目の前にあることをそのまま述べて、そのまま普通に誰しもが考えることを当たり前に述べた場合、発想力があるというふうには見られません。他の人が見ることができないものや、他の人が考えることができないものを、考えて自分の意見を述べることも極めて重要です。

## 論理の一貫性とは何か

小論文では論理に一貫性があることが大切です。論理に一貫性があるとはどのようなことを指すのでしょうか。論理に一貫性があるということは、論点がブレないということです。自分が問題設定した内容や自分が主張した内容から大きくズレて、別のことを話してしまうと、一貫性がある文章とは言えません。

小論文では最初から最後まで自分が伝えたいことから話がずれないことが大切です。話がずれると構成する力がないと思われてしまいますので、気をつけましょう。

## 設問の要求に忠実であることの重要性

一つの設問に複数の要求があることがあります。このような場合は、問題設定の段階で、一度に多くの設問の要求に答えようとしないことが大切です。そして当然ですが、設問の要求を無視しないことが大切です。時々一つの問題について四つくらいの設問の要求がある場合に、大胆に三つくらいの設問の要求を無視して答案を構成している人がいます。

当然ですがこのような答案は、点数が低くなります。場合によっては、一つ一つの設問の要求に対して配点が用意されていることもありますので、設問の要求は、絶対的なものとして、見る必要があります。小論文は自由に書けばいいので、絶対的なものは存在しませんが、設問の要求だけは例外です。設問の要求は神様のようなものであり、絶対です。複数の設問の要求がない場合でも、きっちり正確に要求に応えることが重要です。ゴミ問題についての問題なので、何となく、ゴミについて書くことができることを何でも書けばいいだろうというような考えでは点数は少しもないと思ってください。一言一句聞かれたことに正確に、自分の考えを述べるようにしましょう。

## メリットとデメリットを並べるのは物事が功利主義的な価値観を求めている場合に限る

小論文の間違った指導は、本書の冒頭でご紹介したもののだけではありません。メリットやデメリ

ットを並べて書くのがいいという指導もその一つです。メリットやデメリットを並べて書くことは悪くありませんが、それはあくまでも功利主義的な価値観で物事を判断するのに適した問いであった場合だけです。小論文で扱うテーマは、道義的な価値観から述べなければならぬ問題もあれば、公益的な価値観から述べなければならぬ問題もあります。これらの多くの問題を多面的に考察し、最終的に判断を加えていくことが、どちらかと言えば重視されなければなりません。

## 前提によって結論はクルクル変わる

論理の性質上、前提が変わると、結論はクルクル変わります。前提によってどのように結論が変わるのかを、具体例を交えて見てみましょう。以下は、私がメルマガの読者と一緒に「社会問題を小論文で考える」という企画で勉強会をした時に、私が作成した問題と解答例です。前提によってどのように結論が変わるのかを見てみましょう。

### 【問題】

死刑制度はあった方がいいのか、それともなくす方がいいのか、あなたの意見を自由に述べなさい。

## 《賛成の立場での解答例》

死刑制度はあった方がいいのだろうか。それともなくすべきだろうか。

私は死刑制度の存置に賛成である。私が死刑制度の存置に賛成である理由は、二点である。一点目は法の究極的な使命である社会正義の実現にあり、二点目は国の最高法規である憲法が本質的に目的としている人権保障の最大化にある。

以下になぜこれらの二点が死刑制度の存置によって現実になり得るのかについて述べたい。死刑制度の是非に関する各論は、犯罪抑止効果、犯罪被害者感情、人命に対する尊重等が、重要度が高い項目であろう。この内どの議題を優先すべきであろうか。つまりこの問題は、法が何を重視すべきかという人間が作る法の枠組みの問題である。法は何を前提とすべきかは、国の最高法規である憲法を参照すれば分かる。1948年の死刑制度憲法合憲判決がこの論点を考察する上で重要な判例である。最高裁の判例によれば、公共の福祉の実現を重視するため、やむを得ず死刑制度を合憲とあり、私もこの判決に賛成である。これが一点目の社会正義の実現に該当する。次に二点目について検討を加えたい。憲法の解釈に関して最高裁の判決に反対の意見もある。その論拠は多くの場合、憲法が人権保障を重視しているというものだ。しかし、人権保障を優先的に考えるから死刑制度を廃止するというのは誤りであり、人権保障を優先するからこそ、死刑制度が必要と言えよう。一人の人権保障を優先することによって、より多数の人権が蹂躪される可能性があるためである。以上二点が苦渋の選択をする理由である。

法に求められる役割とは社会秩序の絶対的な保護である。法による社会正義の実現とは一人の人命を救うことにより、その法が適用される国民の生命の危険性を高め、犠牲者の数を増加させることではない。その時代における社会情勢を踏まえた上で構成人員である国民の生命と財産保護等の人権保障の保護範囲を最大限に拡大することである。従って一見すれば無慈悲に思える死刑制度もそれにより救われる、より多くの生命があることを鑑みれば、現状では立法の趣旨に最も合致した決断と言わざるを得ず、世界各国で死刑制度が検討されている場合、当該国家の国民意識の変容を見守りつつ、制度変更の慎重な判断を時代ごとに加えていくことが最重視される必要があるのである。

以上の理由により、私は死刑制度の存置に賛成の立場を取る。しかし、このような死刑制度は例え社会正義の実現のためとはいえ、永久に存置すべきものではない。法整備だけではなく、より適切な教育政策の実行と研究により、国民意識の文明的向上を図りつつ、犯罪発生率を減らし、死刑制度を用意せずとも社会正義実現の国民意識の臨界点を迎えるための、全国民による全力の恒久的努力が必要である。

注意※この解答例ではテーマと主張の方向性が理由となり、(であろう)等の表現を用いていますが、一般的には受験生は(であろう)という表現を用いないことをお勧めします。

さて、それでは次の反対の立場の解答例を見てみましょう。

## 《反対の立場での解答例》

死刑制度はあった方がいいのだろうか。私は、特別なケースを除き、ない方がいいと考える。理由は以下の通りである。

死刑制度の是非についての各論は次のようなものである。犯罪抑止効果、犯罪被害者感情、人命に対する尊重等が、重要度が高い項目であろう。この内どの議題を優先すべきであろうか。つまりこの問題は、法が何を重視すべきかという人間が作る法の枠組みの問題である。法は何を前提とすべきかは、国の最高法規である憲法を参照すれば分かる。少なくとも法の基本的な精神とは、すべての国民を例外なく公平に扱うものである。死刑制度をめぐる各論的な検討は、公平性という立法段階における大前提がなければ、検討のしようがない細目の検討課題である。法はまず『公平性』という前提があり、整備され得るものであり、『公平性』が欠如した法議論は法が法たる所以を失った空理空論であると言えよう。この『公平性』という概念が死刑制度には欠落しているため、私は死刑制度は廃止すべきであると考ええる。

死刑制度が公平性を欠いている理由は、犯罪者本人が選択不可能な犯罪者の出生環境を考慮しているとは言い難いためである。なぜ出生環境を考慮していないと私は考えるのか。その理由は精神構造は両親からの先天的な気質と環境の相互作用によって形成されるためだ。主要な精神構造形成要因は3点であり、1、本人の人生での連続する選択2、両親から受け継いだ遺伝的要因3、出生発育環境（経済的要因、家族構成、周辺人間環境を含む）である。確かに1は本人に帰責性がある。しかし2と3は本人には、人種や肌の色と同じで選ぶことができず本人に帰責性が

存在しない。身体的障害に似たハンディキャップとも表現できよう。民主主義の法治国家にあって、アドバンテージを有さない先天的弱者を保護するどころか、極刑によって裁くのが死刑の制度である。1は出生環境に該当しないが、2と3は出生環境に該当する。社会学的な見地から言えば、人間は出生の土地、時代、性別、家族構成、住環境等、分かりやすく換言すれば運命という名の出生環境の影響を受けることにより極めて大きく行動パターンと思考プロセスが変る生物である。つまり、例外的な環境に生まれた赤子から成長を遂げた青年を死刑にすることは、その法を整備する国家の法は大きく公平性を欠くということになる。EUがEU連合への加盟の条件に死刑廃止を定めている理由はここにある。不幸な環境に生まれた赤子を死刑にすべきではないのと同様に不幸な環境で育った青年や大人を死刑という極刑で人間が裁くことは、法を作ってもいいという国民の許可の前提となっている公平というルールを根底から否定するものである。なぜならば死刑は社会からの『隔離』ではなく、『存在の全否定』であるからだ。このような許容範囲を大きく超えた刑の整備は、とうてい公平性を有するものとは言えず、国家が社会秩序を維持するための法としてバランスの取れたものとは言えない。絶対的な帰責性が無ければ絶対的な刑の執行はないというのがバランスが取れた法制度ではないだろうか。

従って私は、死刑制度を廃止し終身刑の適用範囲を広げることを提案したい。死刑制度の肯定は統治の枠組みを、精神構造形成に関して運のいい環境に生まれた大多数の人間にとって有利な形に構築することと同義であり、公平性を前提とする法が不公平となる自己矛盾に近い制度であると同時に人道的にも許されないことであると考えられるためである。最大多数の最大幸福とは、為政者の判断のための材料であり、為政者が為政者たり得る法を作り上げる際に前提となる国民の

総意ではない。以上、私は死刑制度を廃止すべきだと考える。

ここでご紹介した反対の立場の小論文では、前提を入れ替える論述を行っています。前提が違うことをある程度論証できれば、立場がクルリと変わり、有効な反論が可能になります。この勉強会の解説について読んでみたい方は以下のQRコードを読み込み、アクセスしてください。



## 前提1 重要価値観と理由

物事を正確に考察するためには、まずどのような価値観でこの問題を考察すべきなのかを考えなければなりません。問題によっては、あなたがなぜそのような価値観を重視したのかを書きなさいという問題まで近年では慶應大学では出題されています。価値観とは前提のことです。マイケルサnder教授の『これからの正義の話をしよう』（早川書房）では、道義的価値観と功利主義的価値観と、公益的価値観の三つが紹介されていました。場合によっては価値観とは、このようなものだけではなく、法律は守らなければならないという共通認識かもしれません。いずれにしても、受験生が小論文で文章を書く際には、教条主義的に法律は必ず守らなければならないとか、世の中ではこのようなルールになっているという風にも考える必要はありません。ゼロベースで思考して、法律の改正が必要であれば、法改正が必要だと述べてもいいわけです。

## 前提2 重要論点と最重要論点

重要論点とは雑多に存在する論点の中の最重要の論点のことです。雑多な論点を整理させることを一番好むのは総合政策学部です。近年では法学部や文学部も多くの論点を含む課題文を複数出し、問題を複雑にして難しくする傾向が顕著になってきました。今後この傾向が続くかどうかは分かりませんが、この類の問題に慣れておくことは大変重要です。

論点がいくつもある問題の場合は、前の部分でご紹介した死刑制度の是非の問題もそうですが、まずは最重要の論点は何かを把握しなければなりません。死刑制度がいいのか悪いのかということそれぞれの各論でいくら主張しあっても、議論は平行線のままです。そこでまず、この死刑制度の問題が、本人の帰責性とペナルティーの問題であるという前提に注目し、解答例では答案を作成していました。

課題文が複数ある場合で、例えば五つの課題文があり、五つの文章で、一つのテーマについて、五つの論点から問題が考察されている場合は、二つのアプローチで問題を解きます。

一つ目のアプローチは、どの課題文が正しいのかを見抜くアプローチです。二つ目のアプローチは、すべての課題文を読んで、メタ化して思考した後、何が言えるのかを見抜くアプローチです。

#### ↳ 論点が対立しているケースで複数の資料がある場合

どの課題文が正しいことを言っているのかを見抜く場合は、議論のあるべき目的を考えてみるのと有効です。議論の目的が違えば、同じく結論は変わります。何を重視するかで、何が正しいかは変わるといえます。例えば格差社会の是非についての問題が2007年度の総合政策学部の問題で出題されましたが、このような場合は、議論の目的を考えることで、どのような結論を書くべきかは変わります。格差社会という社会問題を考える際に、一番重視しなければならないのは、

いきすぎた貧困であるという立場をとった場合、導かれる結論はその前提に適したものになります。

このように、何が議論の目的として妥当なのかを述べる際には、その理由をきっちり書くようにしましょう。その時には、論理的な説得だけでなく、情緒的な説得も有効です。私が『小論文技術習得講義』に書いた解答例では、格差とは何かという解釈論をバツサリ切り捨てるために、ピューリッツァー賞を受賞したハゲタカと少女という写真を例に挙げています（ハゲタカと少女という写真は、貧困層の子供である赤ちゃんに近い少女が、飢餓で体が弱り、ハゲタカに狙われているシーンを撮影した写真です）。格差とは何かとか、あってもいいのか、それとも良くないのかというくだらない解釈にカタを付けるためです。格差とは何かという解釈を超えて、情緒に訴えたというわけではありません。結果としてそうなったのですが、この事例のように、論理だけで議論の目的が何かということの説得する必要は必ずしもありません。相手が納得するのであれば、論理も情緒も両方利用しなければなりません。昨今では法廷に陪審員がいますので、情緒に訴える弁論も法学部、法学研究科に在籍する学生は鍛える必要があります。ロボットのよう論理だけを述べるだけでは能力が低いと評価される時代になっています。

### ↳ 論点が対立していないケースで複数の資料がある場合↳

二つ目のアプローチである、メタ化思考についてお話しします。いくつかの課題文で論点が対立していない場合は、別々のことについて述べていたり、一つのテーマで複数の課題文があるケース

です。このようなケースでは、それぞれの課題文を読んで、総合的に見た場合に、何が言えるのかということを考えてみましょう。

### 《自分の知見を加える》

複合的な課題文を読解させる場合は、あなたの知見もさらにそこに加味することが求められていることも珍しくありません。そこで、五つくらいの課題文の内容に、あなた自身の知見を加えてください。その上で何が見えるのか？そして、何が言えるのか？ どういうことが考えられるのか？ということを経験的に思考してください。このような問題は、あなたの頭脳が挑戦されているわけですから、こうすれば合格しますというようなお手軽なテクニクはありません。

そこで少しでも読みやすくなるように、コツをお話しします。出題された文章が何について書かれていて何がポイントなのかということに注力して（論点や主張などの最重要部分だけを見抜くように力をフォーカスして）、見抜くことを中心に課題文を読んでみてください。漫然と読んでいる人も多いのですが、特に資料が増えた場合に、ポイントを抑えた読み方は、大きな意味を持ちます。

## 前提3 目的

議論は、目指すべき目的が変われば、結論が変わります。この問いは、何を目的に議論を進めて

いくべきテーマの問いなのか？ を自分に問うようにしましょう。そうすると、議論の目的が明確になり、議論の目的を何にすべきかの理由が明確になります。その上で問題を考察していくことで、より妥当で論理的な考察を行うことができます。

## 論理の前提の三要素

前提が変われば、結論は変わる

実体

前提となる事実  
にウソや誤りがある

価値観

重視する価値観  
が違う

目的

目指す目的が  
違う

## 小論文とはイエス、ノーを述べる文章ではない

これもよくある見解なのですが、小論文はイエスノーを述べる文章ではありません（少なくとも慶應大学の小論文においては、と考えましょう）。ここに書きたくはなかったのですが、読者のために、あえて記載しました。このイエス、ノーを書くという理論は、同じく二項対立であることを前提としています。ところが、慶應大学の小論文は二項対立ではないことも多いのです。2012年度の文学部の問題や、SFCの問題はその典型です。経済学部でも、二項対立ではないことは多いので、気を付けましょう。

## 小論文はコミュニケーションでもない

私が小論文では和を作ることが大切ということを小論文技術習得講義に書いたもので、このことが誤解を招くことが近年増えたように思います。【和】を大切にするというのは、本質フェーズの話です。定義フェーズの話をするれば、小論文は、原則として論証かプレゼンが目的です。論証にも、プレゼンにも必要なのは、論理と共感です。論理的説得と情緒的説得の両方ができて、レベルが高い論述ができるわけです。ですから、和を作ることが大切ということはあってもコミュニケーションではありません。公共性を有したコミュニケーションの一形態ではありません。

## 小論文は大学に入って学ぶ専門知識にかぶれてちりばめても、必ずしも評価が上がらない

よくありがちな勘違いとして、難しい知識を入れ込むことで点数が上がるというものがあります。細かいことを覚えたり、多くの人が知らないことを学ぶのはけっこうなことですが。少しも止めたりはしません。どんどん勉強しましょう。しかし、このような知識を入れ込みさえすれば点数が上がるという考えは持たないようにしましょう。医学部を受験するご家庭で、医学書を読ませているという保護者の方とお話をしたことがあります。医学書を読ませても点数は上がりません。ここまででさんざん述べましたが、点数は多くの場合、構成員、内容力、表現力、発想力で決まっているからです。レベルが高いことをやることでレベルが高くなるのではなく、これらの配点に直結する力を高めることでレベルが上がるのです。知識を入れて点数が上がることはありますが、劇的に上がることはありません。それに対して、知見を広げれば点数は上がりやすくなります。本をたくさん読みましょう。読書は小論文対策の王道です。

小論文の点数は知識に比例することよりも、反比例することが多いものです。私もこのことを初めて知った時はショックでした。なぜこんなことが起こるのでしょうか。その理由は恐らく、知識が増えた人は自信を持つからでしょう。自信は慢心に変わり、いつの間にか、乱暴な論調に変わります。自分が知識を持っているのだから、この自分の意見は間違っているはずがないという風に考えるのかもしれませんが。しかし、知識は知識にすぎません。現実と知識（理論）はイコールではな

いのです。

## 小論文の書き方（原則的に守るべき構成）

小論文はどのように書けばいいでしょうか。ここでもう一度念のために小論文の構成を簡単に説明しておきます。

### 《主張型の場合》

小論文の問題のほとんどは、主張型です。主張型とは、何らかのあなたの考えを主張するタイプの問題のことです。主張型の場合は、原則として、モンイリケツという、ここまでで紹介した小論文の書き方で書くことをお勧めしています。あくまでもこれは原則的な書き方ですので、ある時は問題設定がなくてもかまいませんし、あるときは、結論がなくてもかまいません。論文の書き方のスタンダードは、序論、本論、結論だと覚えておきましょう。モンイリケツは、これに問題設定がついている形になります。何がもとも基本かと聞かれた場合は、自分の主張に対して理由やデータを述べることという風に私は解説するかもしれませんが。論理というのは、世界共通です。日本でもインドでも、アメリカでも、イギリスでも共通です。ですから、論理の性質上、ここまでで説明したようなタテの論理の関係とヨコの論理の関係をもれなく重複なく設計したものが、論理的にレベルの高い理想的な主張と言うことができます。

### 《プレゼンテーション型（提案型）の場合》

慶應大学の小論文ではプレゼンテーションの問題が出ることも珍しくありません。このような場合には、一番最初に自分の提案内容を書いて、①なぜ自分の提案内容が実現性が高いのかということ②（経済的に、あるいは社会的に）大きなインパクトを世の中に与えることができるのかということ③自分の提案内容が世の中に与える意義について書きましよう。

## 幼稚か高尚か 評論家か実践家か

小論文は高尚な文章を目指して書くべきものではありません。中には、高尚な雰囲気をつかいて醸し出すかに腐心して、それこそが、客観的で格調高い文章なのであるという一種の先入観を持って、小論文の指導にあたっている人もいます。しばしば知性の高い受験生ほど、このような高尚な雰囲気（魔力）に弱く、高尚な雰囲気を醸し出すことがすなわち、知性的であるという勘違いを起しがちです。

.....

高尚な文章は私的な視点を排除し、客観性を重視した当たり障りのない文章になりがちです。イメージが湧かないかもしれませんので、ちょっと例を挙げましょう。

近代思想を考察する上で戦後日本を支配してきたプラグマティズムの存在は無視できない。

……(うんぬんかんぬん)

このような一見すると高尚に見えがちな、知識披露型の言説というのは、何がまずいかというと、何が言いたいのか、読んでいる方には分からないということ。そもそも、私的な視点を欠いた文章というのは、自分の責任を排除した無責任な評論文に過ぎません。小論文試験は評論文ではありませんので、評論家気取りの文章は、まず点数が下がると思ってください。趣旨が違うのです。評論家になりたいのなら、大学を卒業して、雑誌やTVで求められた時になりましょう。それまでは、受験生は評論家ではありません。繰り返しになりますが、小論文では評論家のような言説や視点は求められておらず、受験生の意見と考えを論証することが求められています。また各種学問に触れていない受験生からすれば、学問の成立過程や、学問そのものをチラチラ見せられると、大変気分が高揚するのは分かりませんが、それと小論文試験は別モノです。あなたが逆に大学教授なら、学問の素養を前提とした小論文試験を課すでしょうか。それは悪問です。すなわち、そのような問題を作るとしたら大学として大変レベルが低いということになります。良問の作成で有名な慶應大学が、このような初歩的なミスをすることはありません。

答案を最初から最後まで読んで、何が言いたいのかさっぱり分からないと思われたら、点数は絶望的に上がりません。間違っってはならないのは、小論文の主旨です。格調高い文章というのは、その文章がレベルの低いものであるというわけではありません。小論文の答案としては、トンチンカンな方向に書いてしまった文章ということなのです。

## 社会的視点か、個人的私的な視点か

小論文は、社会的な文章であるからして、社会的な視点が重要で、個人の目線から述べるなどいふ言説や指導があります。無視してください。理由は以下の通りです。

《設問の絶対原則》理由の一つ目は設問でああなたの意見を論じなさいという要求があるためです。設問は絶対です。設問に答えていないものは答案ではありません。0点でも文句は言えません。あなたの意見とは、あなたの個人的な考えをきちんと論証してくださいということです。論証を通じて、客観的に論理的で妥当性が高い主張をすることができるとかを問われているのです。世間に対する知識があるかどうかを見るならば、政治経済の試験を用意して配点を高くすればいいのです。小論文試験は政治経済ではありません。

《小論文試験の趣旨》理由の二つ目は論文と小論文は違うためです。論文は社会的であることも重要です。真実の追究、学問の礎です。しかし小論文はあくまでも、小論文試験であって論文ではありません。論文だと思いたい人もいますが、違います。小論文の主旨は個人的な見解を問い、その思考過程や内容の力を見ることです。社会的であることを至上命題とすると往々にして何が言いたい文章なのかさっぱり分からなくなります。答案として失格です。仮に小論文が論文であったとしても、単に何かを説明しているような文章は、実証性がないものは論文の構成要件を満たさないの  
で、エッセイもしくは作文になります。

最後に、この点について、設問の絶対原則と、小論文試験の趣旨が、本論を考察する際に最重要かどうかを考えてみましょう。福沢諭吉先生が、議論の本位（本来の趣旨・目的）を明にして……と述べられているように、本論を考察する上では、まず小論文試験の趣旨や目的を考えなければなりません。小論文試験の趣旨は優秀な学生を集めることにあります。他の科目では見れない力を測ることが目的です。そしてそのための試験であり、だからこそ設問の要求は絶対なのです。本論を考察する上で小論文試験の趣旨と設問の要求（設問は絶対であるということ）以上に重要な論点は実質的には存在しません。我々が小論文試験とは何かということを考察する前提は、合格することだからです。これが本論（小論文とはどのようなものであり、どう書くべきものか）の前提の趣旨であり、目的です。

従って、小論文とは社会の実情を踏まえて、個人的に自分の頭で考えたことを論じるものであると言えます。

「小論文とは社会の実情を踏まえて、（個人的に）自分の頭で考えたことを論じるもの」

## 小論文の本質は分析、思考、論述の3点の力にあり

私がおここに述べる技術とは、モチベーションコントロールの技術や、学習スキルも含まれます。速

読も記憶も含めた学習スキルに、個人の情報処理能力や頭の中の知識、見識の量は依存しているのです。

小論文は、分析力と、思考力と、論述の3点を磨いて力をつけるものです。もちろん、頭の良さのようなものは、いくら影響してしまうでしょう。それでは、頭のいい人以外は、もうあきらめるしかないのでしょうか。そんなことはありません。分析力や、思考力や、論述力をスキルアップさせ、総合的な能力を高めることで対処できます。なぜ、これらの力を引き上げることが最も重要なのでしょうか。理由は三つあります。一つ目の理由は、知識偏重人間を選ぶなら、小論文試験は必要ないからです。試験の制度趣旨が理由です。二つ目の理由は、そもそも最初から天才的な人に勝つには、修行してスキルアップをするしかないからです。三つ目の理由は、点数に直結するからです。知識はいくら増やしても、出なければ終わりです。しかし、分析と思考と論述は、試験で試される確率は100%です。あなたは1%に時間を投資するのと、100%に時間を投資するのでは、どちらが効果的な投資だと思いますか？ そうです。もちろん、100%の方です。世の中には、宝くじを買うことを推奨する人もいますが、そのような宝くじ（出るのか出ないのか分からないこと）に知的な人はお金を使いません。自分でがんばって働くことで生活するのが、賢明な人です。

### ↳ 小論文試験は技術論か否か

試験とは本来、受験生の力を見るものです。その意味では、本質的に技術論以外で語るならそれは試験ではありません。本質的に技術論です。なぜならスキルというのは受験生の力そのものだから

からです。どんなに時代や世界を見通そうとしても、これらの3点（分析・思考・論述）のスキルがなければ、何も見えず、何も考えられず、何も情報を発信できず、誰の心も動かせず、ただ一人で、頭の中で知識をグルグル回して、現実を変えることができない人になってしまいます。小論文試験では頭でっかちではなく、本当に考える力を試されているということを強く認識しましょう。

また、ハイレベルな内容を頭に詰め込むと合格するわけではありません。早稲田の院卒の人が慶應SFCに4回不合格になった事例を思い出しましょう。医学部受験のために医学書を小論文対策で読むのは、愚の骨頂です。くれぐれも注意しましょう。合格に直結する力は、分析力、思考力、論述力なのです。

※ 特に慶應大学を受験する人は、社会に価値を提供する人間を目指すわけですから、頭でっかちイコイル頭がいいというような考えではいけません。

### 《推薦図書》

東大京大で、4年連続1位のベストセラーを推薦しておきます。ここで述べたようなことがより深い次元で理解できるはずですよ。与えられる学問ではなく、自分で立てた問いを考察できる側の人間になりましょう。小論文で求められているのはこの力です。

『思考の整理学』（筑摩書房 外山滋比古著）

### ▼参考にするべき点

情報をメタ化するのが論文であるという、メタ化させる思考の様式についての理解、人がモノを考えることができるようになるとはどういうことか、醗酵についての考察、コンピューターと人間の役割論、どうすればアイデアが湧き、発想が生まれるのかについての考察などが参考にすべき点です。

### ※注意点

知見を広げるための勉強のノートや、アイデアのためのノートですが、できればオンラインで作りました。私の会社で開発した『構造ノート』というノートのクラウドソフトウェアを無料で開放していますので、このノートを使って、ガンガンにいろいろな知識を集めていきましょう（224頁でご説明しているクラウドソフトウェアのことです）。従来のノートを作る手間の時間に比べて、約3分の1程度の時間で、ノートを作ることができます。手書きでノートを作る何倍も速いスピードでノート作りができる上に、復習も大変効率よくできます。あなたが受験する学部に関連する情報を集め、知見を強化しましょう。合格に直結する内容を頭に入れなければ、合格から遠のきます。あなたが知らないこと、分からないこと、理解を深めたいことを情報収集しましょう。デジタルシSTEMのホームページのTOPページ一番右下に構造ノートへのリンクがあります。

## どうすれば高得点を取れるのか？

私は他の人とは少し違った仕事をしています。私はスキルアップ（技術習得）のコンサルタント

です。予備校の先生のような仕事も実質していますが、違います。予備校の講師は、どうやって現代文の文章を読み解くかということを知説するかもしれないませんが、私はどうやって力を引き上げるかということを知説して、人を育てている人間ですから、どうやって読解するべきかということよりも力の引き上げを重視します。

そのため、文章の読み方も認知心理学の内容を基に解説をします。人が文章を読んで理解できるのは、スキーマの力によるものです。スキーマとは頭の中にある知の枠組みのことです。我々が文章を読み、理解した時に頭の中で起こっているのは、スキーマの再構築です。

人は統合理解モデルという認知の方式で、ボトムアップとトップダウンの帰納、演繹の思考の回路で文章を理解して、その後考えます。技術論そのものが、役立たなくなるのは、このような本質を無視して、各論的なテクニックの一つ一つをお得情報として活用するからです。

ところが、人のスキルというのは、総合的な知の枠組みそのものを指すので、このような知の体系を頭の中にかにすれば構築できるのかということが、そもそも人の頭脳の働きの大前提として存在しています。ですから、私がやっていること、これからやろうとしていることは、これこういうものを読めばよろしいという、単なる知識論とは一線を画しますし、文章読解のテクニックを伝授するだけの単なる技術論でもありません。頭の中の知の枠組みを作ることによって困る人のお手伝いをするのが私の仕事です。知の構築のレベルを決定づける要因の支援が私の仕事です。

小論文という問題を考察する際には、小論文とは何かということのみを考察するのでは不十分です。小論文と人、そして社会、という小論文を受験して、高い点数を取り、合格するという現象そのものを構成している構成要素から、その現象の因子として結果に影響を与えるものについて、問題解決を図らなければなりません。小論文は単なる社会論ではありません。

従って、読解のテクニクがどうか、小論文は何かとか、社会がどうかであるかということ言説のみから小論文試験で高得点を得る現象を引き起こすことは大変難しいということになります。

小論文で高得点を取るには、人と小論文と社会に詳しくなる必要があるということです。書くのも人であり、採点をするのも人です。私たちはどうすれば、力を引き上げることができるのか？ということ学ぶことでより力が引き上がりやすくなり、合格しやすくなります。

## 書き方のまとめ

**(慶應)** 小論文をどのように解いて書くべきか、概要をここまでお話してきました。次のページでご紹介するのは、そのまとめの図です。注意点は、もう一度念を押しますが、書き方に決まりはないということです。従ってモンイリケツと私が指導している内容も、設問の設置のされ方次第でクルクル変えなければなりません。ある場合は、問題を設定することだけや、理由を書くことだけで問題が設計されることもあるでしょう。ですから、その時はきちんと問題の趣旨や意図を見抜い

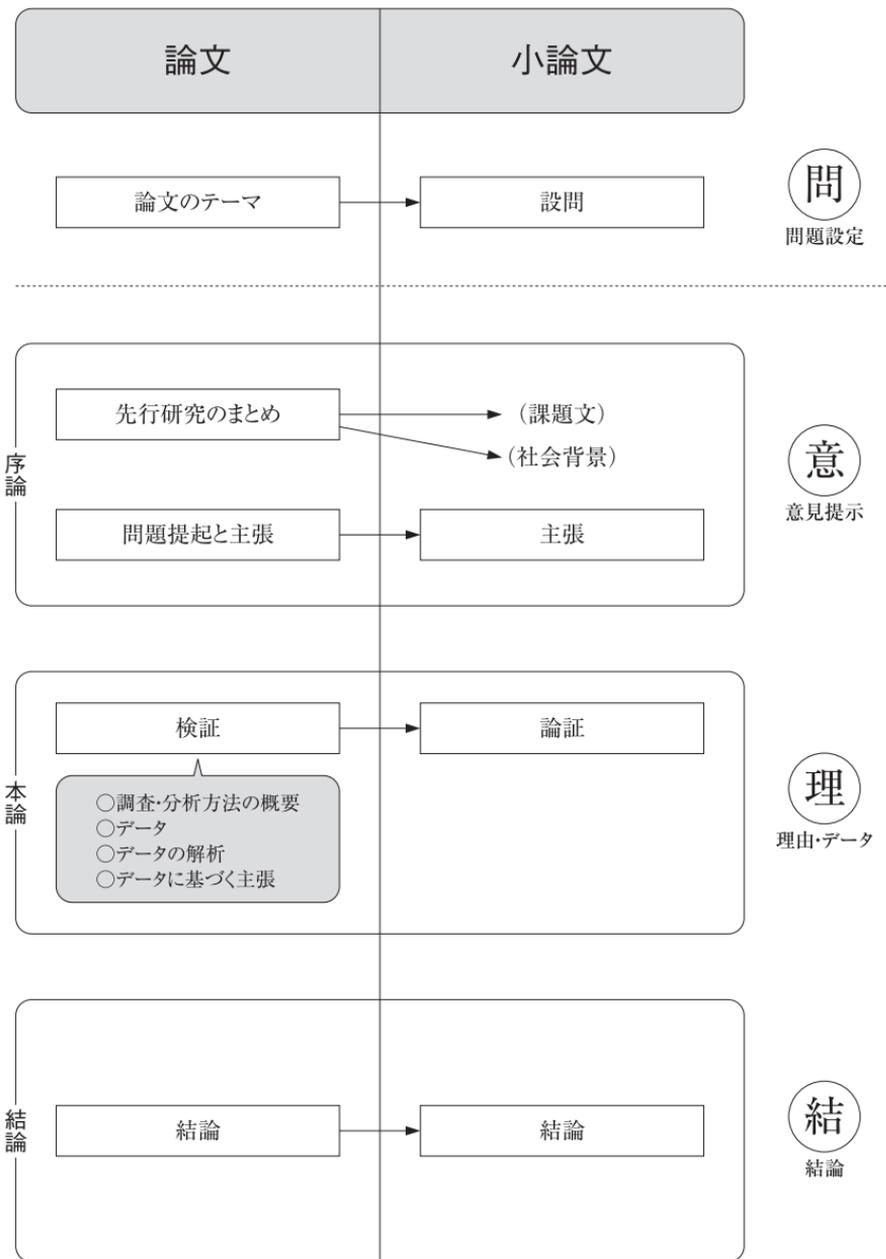
て、求められていることを書かなければなりません。

次のページのまとめは、あくまでも原則として、小論文はどのように書くべきなのか？ の考えだと思ってください。小論文が作文でない以上、論理的に論述しなければなりません。モンイリケツで書かなくても、その原則的な考え、文章の組み立て方や骨格、論理的な文章構築のための基本的思想、論文の作法、世界のスタンダードである、論文の書き方、これらを総合的に考えた場合、モンイリケツが比較的スタンダードな書き方であると言えます。

なぜならば、モンイリケツとは、次のページでも説明している通り、論文に問いがただただからです。論文ではなく、設問がついた論文試験、これが小論文です。理由の概要も図式化しました。参考にしてください。

小論文は答えが無い試験です。ここにご紹介するのは、あくまでも論理構成面における原則ではありません。

論理は世界共通です。書き方ノウハウの話ではありませんのでケースバイケースで対応しましょう。



論文と小論文の対応表

■小論文はどのように書くべきなのか？

